

6 - 8 上宝における最近の地殻変動

Ground Deformations Observed at Kamitakara

京都大学防災研究所

上宝地殻変動観測所

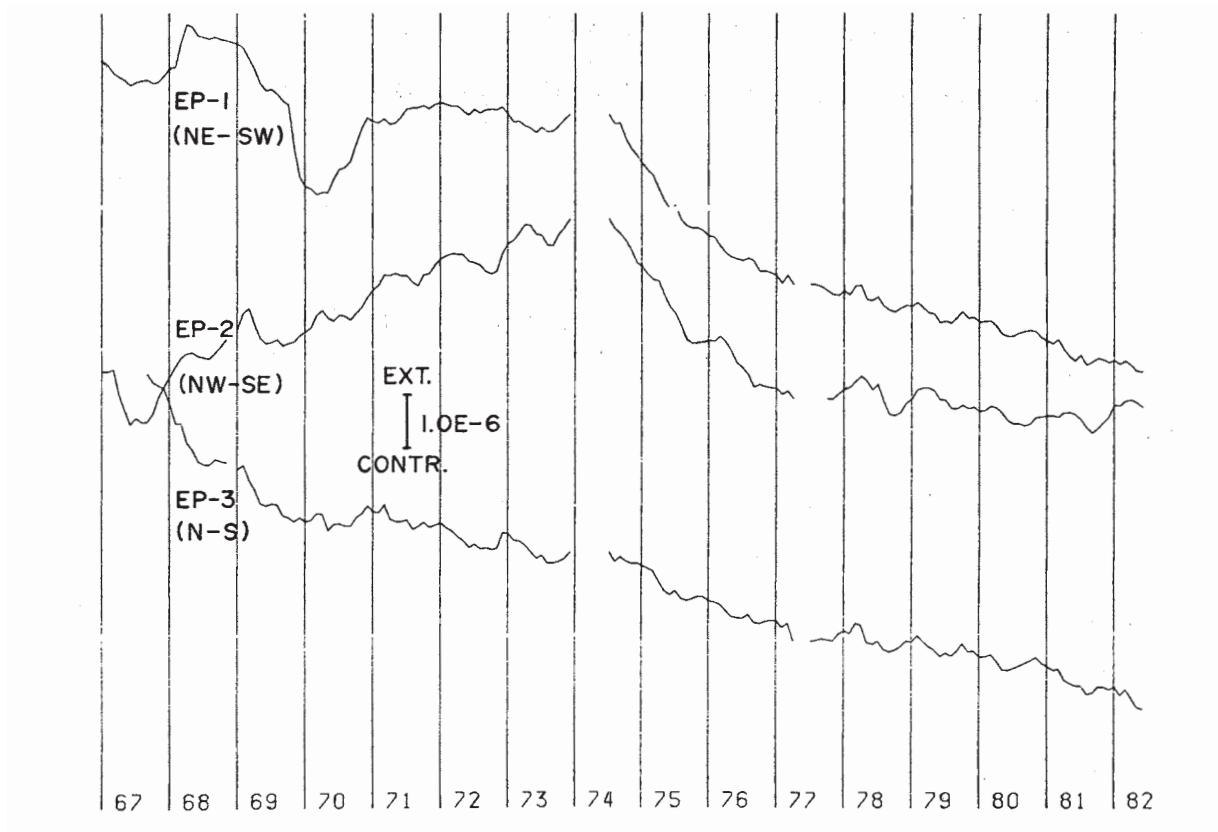
Kamitakara Crustal Movement Observatory
Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University

第1図は上宝地殻変動観測所蔵柱観測室において水晶管伸縮計3成分によって観測された、1967～1982年6月の地殻歪永年変化を示す。基線長は3成分とも28mで、水平振子を拡大装置に用いた光学記録方式による記録を使用した。差動トランス方式による記録との対比は前報¹⁾を参照されたい。1968年より1970年末まで、岐阜県中部地震(1969年9月9日、M=6.6)前後の変化が犬山地殻変動観測所などの観測結果とよい相関を示している。1973～1975年には全国的に同傾向の地殻変動のパターンが見られると言われている。残念なことに、上宝では1973年末から1974年半ばにかけて坑内補修工事を行なったため、この期間が欠測となっており、再設置の影響が74年から75年にかけて残っている可能性も否定はできない。その後、最近は特に顕著な変動は見られない。

第2図は上宝における最近6ヵ月(1982年1月～6月)の歪変化、傾斜変化、坑内湧水量および降雨量を示す。この期間の伸縮・傾斜変化は総じて静穏であり、急激な変動は見られない。雨量との相関が高いが、雨の降り方によってはほとんど変化が表われない場合もある。WT 21がN45°E-down方向へ約1マイクロラジアン変化しているのは年周変化の半周期を示すもので、特に大きな変動ではない。2月後半に伸縮・傾斜ともに共通した異常が見られる。降雨量も少なく、湧水も定常的であるが、一方では、坑内の床に掘削した堅穴の水位がこの時期に極小になっており、水位変化と極めてよく対応するのが興味深い。E 2の4月下旬と5月下旬に表われている異常は、同じ水晶管に取付けてある別のセンサの記録との比較から推定すると、電氣的・機械的な原因による異常である可能性が大きい。

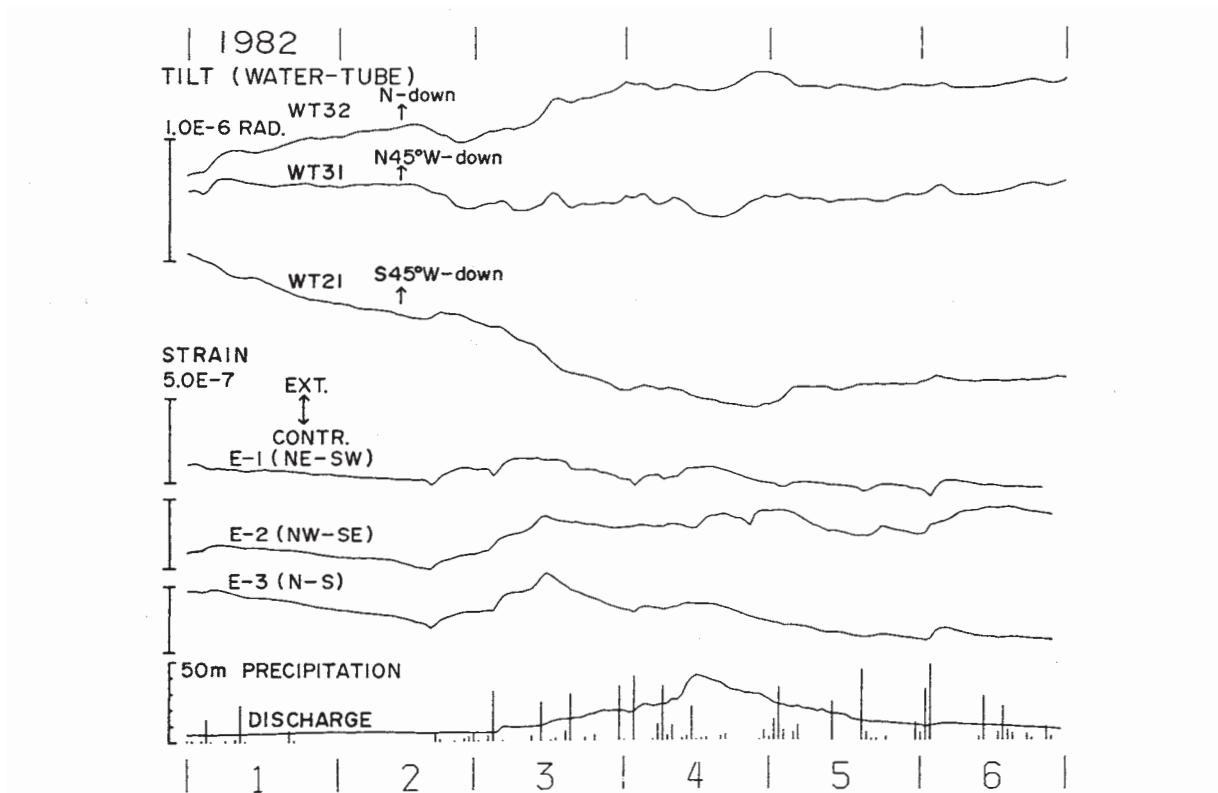
参 考 文 献

- 1) 京大防災研究所上宝地殻変動観測所・地震予知計測部門：上宝における地殻変動および跡津川断層における光波測量結果(2)，連絡会報，27(1982)，276-280，.



第1図 上宝における歪変化 (1967 ~ 1982年6月)

Fig. 1 Secular strains observed with three components of strainmeters at Kamitakara for the period 1967-1982.



第2図 上宝における最近の歪変化, 傾斜変化, 坑内湧水量
および降雨量 (1982年1月~6月)

Fig. 2 Daily values of crustal strains observed with three components of strainmeters, crustal tilts observed with three components of watertube tiltmeters, discharge of underground water, and precipitation.